

製品名: EphA2 (リン酸化Tyr588) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04608**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 130kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | EPHA2 |
| 別名 | EPHA2; ECK; Ephrin type-A receptor 2; Epithelial cell kinase; Tyrosine-protein kinase receptor ECK |
| 遺伝子 ID | 1969.0 |
| SwissProt ID | P29317 |
| 免疫原 | ヒト EphA2 のリン酸化部位（リン酸化 Tyr588）周辺の合成リン酸化ペプチド |

背景

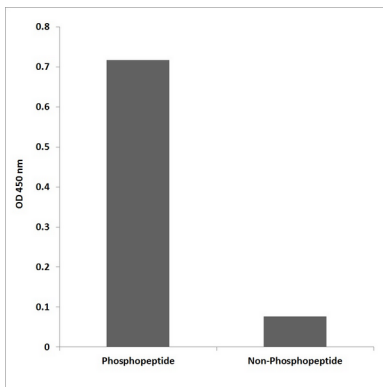
この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼファミリーのエフリン受容体サブファミリーに属します。EPH および EPH 関連受容体

は、特に神経系において、発達過程の媒介に関与していることが示唆されています。EPHサブファミリーの受容体は、典型的には単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプIIIリピートを含む細胞外領域を有します。エフリン受容体は、細胞外ドメイン配列の類似性と、エフリンAおよびエフリンBリガンドへの結合親和性に基づいて、2つのグループに分類されます。この遺伝子は、エフリンAリガンドに結合するタンパク質をコードします。この遺伝子の変異は、遺伝的に関連する特定の白内障疾患の原因となります。[RefSeq提供、2010年5月],触媒活性:ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能:エフリンAファミリーのメンバーの受容体。エフリンA1、-A3、-A4、および-A5に結合します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyrタンパク質キナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性:1つのSAM(無菌アルファモチーフ)ドメインを含みます。類似性:2つのフィブロネクチンIII型ドメインを含みます。サブユニット:SLAと相互作用します(類似性による)。INPPL1/SHIP2と相互作用します。組織特異性:皮膚、腸、肺、卵巣など、上皮細胞の割合が高い組織で最も高く発現します。

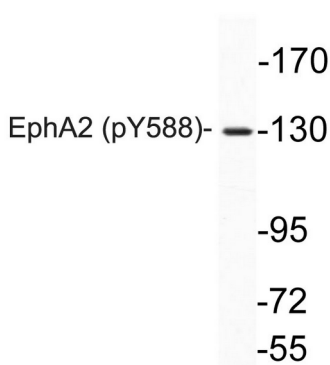
研究分野

軸索ガイダンス;

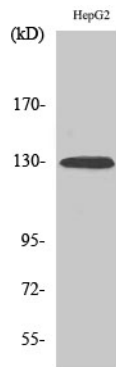
画像データ



EphA2 (リン酸化 Tyr588) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



リン酸化 EphA2 (リン酸化 Tyr588) 抗体を用いた HepG2 細胞溶解物のウエスタンブロット解析。



リン酸化 EphA2 (Y588) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析